

第22回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日 時】 令和2年10月13日（火） 14:00～16:00

【場 所】 軽井沢町中央公民館 講義室

【出席者】 基本会議委員：石山武委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
瀬川智子委員、高尾幸男委員、藤井俊子委員、
飯塚真由美委員、高橋浩志委員、荻原貴士委員、
小林広幸委員、瀬原史織委員、柳澤陽平委員

内 容

1. 開 会

【導入】

ファシリテーター

前回の会議終了後、今期の風土フォーラムの活動に関して各委員より忌憚のないご意見をいただきました。

世界各地がコロナ禍の影響を受ける中、日本においてはGoToキャンペーンが実施され、ウィズコロナという状況になってきていると思われる。

町長より示されている「基本会議委員に風土自治の精神の伝導役になって欲しい」という意向も踏まえて、本日の議論を進めていきたい。

2. 会長あいさつ

会 長

お忙しい中、本日の会議に出席いただき感謝する。ウィズコロナという社会となり、企業経営、自治体経営、教育、医療の多分野においてニューノーマルな生活が進んでいる。軽井沢においても、GoToキャンペーンの効果もあって観光客等が戻ってきたと聞いている。

基本会議を通じて、コロナ禍における軽井沢の立ち位置というものを議論できればと考えている。本日の会議では、第3期基本会議の目標設定やプロジェクトチーム（PT）に関することを主に議論していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3. 議事

(1) 第3期の活動方針について

会 長

第3期基本会議の大方針である「with コロナ/after コロナ時代のまちづくり～新しい暮らし方・働き方変革と見直し～」を掲げた今期においては、議論や勉強を行いつつ、風土自治の精神を町民等への伝導を目指した活動を行っていくこととしたい。また、コロナ禍における今後の軽井沢の在るべき姿について議論を進めていきたいと考えている。

第3期基本会議の最終目標として、来年度後半にこれまでの基本会議を総括するシンポジウムの実施を目指したい。今期基本会議の開催数は年3回程度を想定しており、今後はシンポジウムの構成について議論していきたいと考えている。

今期のPTの活動については、既存のPTは休止とし、風土自治圏の確立を目指して長期視点で軽井沢の在り方を考えるPTを新たに設置できればと考えている。新規PTにおいては、風土自治圏の確立に向けて具体的なテーマを設定してもらい、自走による取り組みを進めてもらいたい。

既存PTで取り扱っていた内容については、新規PTにおいて風土自治圏の確立に沿った形で取り扱っても良い。新規PTの立ち上げに向け、座長及び副座長を決めていただきたい。

※座長に須永委員、副座長に鈴木委員が選任された。また、PTで取り扱うテーマについては、初回会議より検討を進めることとした。

【意見交換】（発言順）

A委員

ランドデザインの構想は素晴らしい内容である。基本会議委員として風土自体を推進するにあたり、誰もが分かりやすい表現で伝えられると良いのではないかと思う。

ファシリテーター

自治という点においては、行政からの押し付けではなく住民自走ということ 키워ドとしている。シンポジウムの開催までの過程で議論をしながら理解を深めていくのも良いのではないか。

A委員

シンポジウムの開催については賛成である。しかしながら、3期6年の振り返りではなく、3期目の2年間の活動をまとめた内容が良いのではないか。

ファシリテーター

総括というのは過去の活動を振り返って報告するという形式ではない。今までの議論等を踏まえて、今後どうしていくのかという未来志向の内容を想定している。

A委員

今期チームみらいえの構成員就任の依頼を受けているが、どうなるのか。

ファシリテーター

先ほど承認いただいたとおり、今後のPTについては、これまで設置していた3つのPTを1つのPTにまとめて活動を進めていくということになる。

(2) エリアデザイン検討の進捗について

ファシリテーター

エリアデザイン運営会議では地域会議の開催に向けて検討を進めており、各エリアにおける自走による活動を通じて、課題の洗い出しや解決の方法について検討していくことを目指している。

昨年度から検討を始めている新軽井沢・中軽井沢エリアに加えて、

旧軽井沢・追分・南地区エリアで運営会議を立ち上げた。

地域会議の開催については、コロナ禍の影響により大人数の会議は実施が困難な状況であるため、アンケートの調査実施やオンラインワークショップの実施等によりエリアデザインをはじめとする地域の将来像について地域住民から意見を集めることとしている。

【意見交換】（発言順）

A委員

基本会議委員がエリアデザイン運営会議にオブザーバーとして参加できる機会があると良い。

ファシリテーター

運営会議は、運営会議メンバーが中心となって議論される場である。オブザーバーとしての参加については、各エリアの運営会議に確認する必要がある。

B委員

旧軽井沢エリアの運営会議に参加している立場からすると、運営会議は地域の顔見知りが集まって検討を進めているという印象が強い。運営会議ではなく、オープンに開かれる地域会議に参加してもらう方が良いと思われる。

A委員

既存の5エリア以外の地域がエリアデザインを進めていくとなった場合、事務局の支援等を受けられるという認識で良いか。

ファシリテーター

個人的な考えとしては、地域のプラットフォームも踏まえて検討される内容だと思われる。また、コミュニティ共創PTが大日向地区と活動を進めてきたように、新規PTの中で5エリア以外の地域と関わっていくことも考えられる。

C委員

風土自治というのは、軽井沢の風土を踏まえ、町民だけでなく別荘所有者や町内事業者等と一緒に考えていくことだと捉えている。

現在のエリアデザイン検討では、別荘所有者がメンバーに入ってい

るわけではなく地域住民が主体となっている。風土自治とエリアデザイン検討は別の視点で考えていくと良いと思われる。

ファシリテーター

今後の地域会議においては、別荘所有者や企業の方にも加わってもらうことも考えられると思う。

D委員

各エリア運営会議においても、座長や副座長という位置付けのメンバーがいるのか。

ファシリテーター

各地域の中核となる方たちが構成員となっている状況である。(座長等の役職はなし)

A委員

南地区エリアデザインは複数の区で検討を進められるということであるが、対象地区はどこか。

ファシリテーター

下発地、上発地、杉瓜の3地区で進める。

(3) 新しい暮らし方における軽井沢の立ち位置と方向性【討議】

ファシリテーター

コロナ禍により 20・30 代の人たちの地方移住に対する関心が高まっており、希望する移住先として長野県が1位に選ばれているというデータがある。

企業の動きを見ると、オフィス移転について検討及び実施が進められ、原則在宅勤務等といった柔軟な働き方も導入されている。

【意見交換】(発言順)

E委員

テレワークに関する業務に携わっている立場から見ると、コロナ禍によって働き方が変化して導入されたテレワークについては、成果が出る人、出ない人をどのように評価するのかという課題があると思われる。テレワークについては、制度と取り組む方法を並行して検討を進めてい

く必要があると感じている。

自治体の移住促進に向けては、まさに風土自治というものが重要だと思う。地域で暮らしている人たちの生き方に対して憧れを持てる場所には、自然と人が集まる。例えば、福井県鯖江市はJK課というプロジェクトを進めており、人が集まる傾向があると感じている。

軽井沢町内の企業がマイクロツーリズムを提唱しているが、長野県民が軽井沢に来るといった話はあまり聞こえてこない。軽井沢を訪れる県民が少ないという問題については、大変興味を持っている。

A委員

私に関心を持っているのは人口動態である。軽井沢町における平成期間の転入、転出の状況を見ると、約39,000人が転入、約34,000人が転出という状況になっており、残ったおよそ5,000人が今も軽井沢で暮らしている。人口動態から軽井沢の転入者や転出者が、どのような思いや暮らし方、働き方をしてきたのかを調査できれば良いと考えている。

会 長

軽井沢には受け継いできた歴史や文化、自然環境という素晴らしい遺産がある。その中でも、まちを活性化し、住んでいる人の生活の質を向上させることが必要になる。コロナ禍によって希望する移住先に軽井沢が選ばれることもあると思うが、成り行きに任せるのではなく町としての戦略が必要になると思う。

軽井沢に求められるのは、これまでの遺産に磨きをかけることや付加価値を高めることなどによる質の維持・向上であると思う。そのためにも、新しい技術を活用していくことや住民意識の変革や人材育成が必要になるのではないかな。

E委員

軽井沢は来てほしい人を選ぶことができる稀なポジションにいるため、戦略につなげられると思う。日本でもこういうことができるという模範を示すようなこともできると良いと思う。

C委員

今後の住民の暮らしや経済、産業を守るためには、どういう人に来て欲しいのかを考えることは重要なことではないのかな。

町内のタクシーを利用した際に、運転手から首都圏からのお客さんが怖いという話を聞いた。シェアサイクルを導入することで、新型コロナウイルスの感染リスクを防ぐことにつながり、別荘所有者や観光客などの回遊性が高まるのではないかと。

ファシリテーター

コロナ禍におけるシェアサイクルについては、誰が使った自転車か分からないということで難しい面もあるため、導入には工夫が必要になると思われる。

F 委員

軽井沢で仕事をしようという人が増えるのは歓迎である。移住者が軽井沢での楽しみを見つけようとしたときには、地元住民との接点が増えるのではないかと思う。

また、SDGsに関連した環境保全については、注力していくべき問題だと思われる。今後、環境に対する意識を持った人たち同士のつながりを作っていくなくてはならない。

町 長

会長会長から「軽井沢の質」について話があったが、私も同感である。質を呼び寄せるためには、軽井沢町全体におけるヒト・モノ・仕掛けづくりが必要で、特にヒトが重要だと考えている。

県内には葛飾北斎が晩年に通ったと言われる栗の里と呼ばれる小布施町がある。北斎は何日もかけて江戸から信州小布施まで歩いてきたわけだが、その目的は小布施の栗を食べるためではなく、小布施の文化人であった高井鴻山との芸術談義であった。ヒトが呼び寄せる力の例ではないかと思う。

軽井沢は多くの文学者が集って活動した文学の里である。これもヒトが人を引き寄せ、人のつながりによって築かれてきたものだと感じている。これまでもG7やG20といった国際会議を開催してきた軽井沢だが、ダボス会議のように繰り返し開催される場にはなっていない。国際会議都市軽井沢に向けては、多くの人々の力を借りて、情報を求める人に軽井沢へ来てもらうことを推進していく必要がある。テレワークについても、ただ軽井沢に人が集まるのではなく、質の高い情報を持ったヒトに集ま

ってもらえるよう進めていく必要があるのではないかと思います。

4. 連絡事項

事務局

新規設置PTの初回会議の開催に向けて、調整を進める。

5. 閉 会